

## 告辞

本日ここに、平成二二年度函館工業高等専門学校卒業式及び修了式を迎えるにあたり、外国人留学生三名を含む一八三名の本科卒業生、及び二七名の専攻科修了生の皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。そして、ご来賓、保護者、本校名誉教授をはじめとして多くの皆様方のご臨席を賜り、この栄えある式典を無事に執り行えることは、私ども教職員及び本校関係者一同にとって大きな喜びとするところです。

皆さんは、この戸倉の丘の学舎で、本科での五年間を、あるいは専攻科までの七年間の長きにわたり、学友と苦楽を共にしつつ、研鑽に励んできました。留学生の皆さんは編入学後の三年間を、故郷とは全く異なる風土の中で、学業生活を送りました。今皆さんは本校の教育課程を修了し、それぞれの思いを胸に、晴れて社会に、または更なる勉学の道に歩み始めようとしています。その中には、企業を経験後、再び学生として意欲的に勉学に励み、他者の範となり専攻科を修了される方々も含まれています。本校にとって、多様な人材を社会に送り出せることは、まことに誇らしいことです。改めて、皆さまにおめでとうと申し上げます。

さる三月十一日に、我が国観測史上最大規模となる東北地方太平洋沖地震が発生し、直後の巨大津波は東北太平洋沿岸に激甚災害をもたらしました。目下、

国を挙げて懸命の復旧作業が進められているところです。高専によっては人的被害の報告もあり、卒業式中止した学校もある中で、本日の式典を無事に行えることのありがたさを、改めて噛みしめているところです。

この二週間に様々な産業に大きな影響が出ました。皆さんの就職先企業のいくつかもこの影響を受け、さぞやご心配のことと思います。私たちは今回の災害に直面して、世界と日本が一つであることに気づきました。地震の直後から、海外のメディアはいち早く報道し、多くの国から救助隊の派遣と支援物資の供給を受けました。世界が一体となり日本を支援してくれることに、感謝したいと思います。さらに、海外メディアの、日本の復興を期待する心情的な応援も心強い限りです。

日本はこれから何年かかけて、産官学の連携により、産業復興と日本の再生へ向かいます。その重要な担い手は、本日卒業、修了される皆さんです。共に英知の限りを尽くして取り組んで参りましょう。

皆さんのますますの研鑽と活躍を切に願い、門出に向けた告辞を締めくくります。

平成二三年三月二四日

函館工業高等専門学校長

岩熊敏夫